「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」（11：8～22）

■ヘブル人への手紙の構成

| 二つの主要な区分 | 内容 | 箇所 | 警告 |
|---|---|---|---|
| 第一区分：<br>神学的理論を中心に（適用としての警告も含む）<br>ユダヤ教の三本柱と御子との比較 | テーマ | 1：1～3 | |
| | 天使たちに優る御子 | 1：4～2：18 | 警告①<br>2：1～4 |
| | モーセに優る御子 | 3：1～6 | |
| | 第二の警告 | 3：7～4：13 | 警告② |
| | アロンに優る御子<br>（レビ族アロンの家系の祭司職に優る御子）注① | 4：14～10：18 | 警告③<br>5：11～6：20 |
| 第二区分：<br>適用（御子の優位性を理解した上での、信者の歩み） | 勧めのための2つの基盤と4つの勧め、警告、励まし | 10：19～39 | 警告④<br>10：26～31 |
| | 旧約の信仰者たちの生き方を手本とする | 11：1～40 | |
| | 信仰を持ち続けることの勧め | 12：1～29 | 警告⑤<br>12：25～29 |
| | まとめとしての勧め | 13：1～25 | |

注①　レビ族アロンの家系の祭司職　⇒　以下、「レビ系祭司職」

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

| 細目 | | 内容 | 箇所 |
|---|---|---|---|
| 信仰の忍耐 | | 信仰の特徴 | 1節 |
| | | このような生き方が可能であることを実証した人々がいる | 2 |
| | | 目に見えないものを確信する事例＝天地創造 | 3 |
| 旧約の信仰者たち（時系列で） | 族長時代以前 | アベル | 4 |
| | | エノク | 5～6 |
| | | ノア | 7 |
| | 族長たち | アブラハム | 8～19 |
| | | イサク | 20 |
| | | ヤコブ | 21 |
| | | ヨセフ | 22 |
| | 荒野の旅 | モーセの両親 | 23 |
| | | モーセ | 24～28 |
| | | イスラエル民族の人々 | 29～30 |
| | | ラハブ | 31 |
| | 試練の中で | イスラエル国史に見る信仰（士師たち・王たち・預言者たち） | 32～34 |
| | | 信仰は死を乗り越える | 35～38 |
| 信仰の勝利 | | | 39～40 |

■ 前回の内容　「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」②（11：9～16）

| 手本となる生き方 | | 内容 | 箇所 |
|---|---|---|---|
| 神の召命を受けて<br>生まれ故郷を離れる | | （使徒7：2～5、創11：31～12：7） | 8 |
| 寄留者となる | アブラハム | （創13：18、22：19、23：4、24：67、25：27） | 9 |
| | | （創24：7） | 10 |
| 不可能でも子が生まれるという約束を信じる | | （創17章、ロマ4：17～22、創18：1～15） | 11～12 |
| 目の前の土地ではなく、より優る国を求める | | 【イサク、ヤコブも】 | 13～16 |
| イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明する | | （創22：1～18） | 17～19 |

寄留者となる（11：9～10）

1. 9節
   (1) 約束された地に、他国人のようにして住んだ。
      ● 「住んだ」・・・ギ原語は、「他国人として、仮住まいで住む」の意味。
   (2) イサクやヤコブとともに、天幕生活をした。
      ① アブラハムは、75歳で約束の地に入り、175歳で死ぬまで、天幕生活をした。（創13：18、22：19）
      ② アブラハム契約の約束を継承したのは、彼の子イサク、そして孫ヤコブ。彼らもまた、天幕生活をした（創24：67、25：27）。ヤコブが生まれたとき、アブラハム160歳
      ③ アブラハムは堅く信じていた。約束の成就までどんなに長くかかろうとも、神の約束は必ず成就する。たとえ自分がいったん墓に入ることになろうとも、そのときは復活を経て、必ずいつの日か、この地を所有する。
2. 10節
   (1) 彼は、〔目の前の約束の地を超えて〕、ある一つの都を待ち望んでいた。
   (2) その都は、神が造った堅い基礎の上に建っている。
   (3) アブラハムが望み見ていたのは、天の神の都である。神が設計者であり、建設者である都である（参考、創世記24：7「天の神」）
   (4) この手紙の中では、この後、3回、この都について語る。
      ① 11：16　「天の故郷」・・・後で説明しますが、原文の意図は「天の国」
      ② 12：22　「シオンの山、生ける神の都、天のエルサレム」
      ③ 13：14　「永遠の都」
   (5) 天のエルサレムについて、さらに詳しくは、新約聖書の黙示録21：1～22：5。
   (6) アブラハムが究極の約束の地として信じていたのは、天の神の都であった。

① 天の神の都は、「カナンの地」に加えて与えられるものである。
② 天の神の都は、カナンの地の領域内にはない。
③ 天の神の都を持ち望むことが、アブラハムが信仰の忍耐を発揮した秘訣である。

## 不可能でも子が生まれるという約束を信じる（11：11～12）

1. 11節
(1) 信仰によって、サラは「子を宿す」力を与えられた。
① ギ原語は、きわめて具体的な表現「精子を託す」。これは男性側の行為を示す。
② よって、「信仰によって」とは、アブラハムの信仰によって、という意味。
(2) アブラハムの信仰によって、サラは子を宿す力を与えられた。
(3) サラはそういうアブラハムと信仰によってひとつとなった。アブラハムは、サラと共に、子を宿す力を得た。サラは「すでにその年を過ぎた身であるのに」、すなわち月経がなくなっていたのに。
(4) 「サラは約束してくださった方を真実な方と考えた」→創世記の記録をたどると
① サライが、自分の女奴隷ハガルによって子を得ようとしたのも、信仰から出たことである。サライは、神がアブラムに子を与えるという約束を信じていた。同時に、自分が子を産まないことは神がそのようにしておられるということを理解していた（創16：2）。
② アブラムもサライも、神がサライを実母として子を与えるご計画であることまでは理解していなかった。
③ したがって、カナンの地に来て10年経過した時点で、サライは自分の女奴隷ハガルを通して、子を得るという当時では当然の対応を選んだ（創16：3）。翌年、イシュマエル誕生。アブラム86歳。
④ 創17：15～16　アブラム99歳《17：1～14で神はアブラムを「アブラハム」と改名、アブラハム契約のしるしとして「割礼」を命じられる》　神がサライを「サラ」と名を変え、彼女によって男の子を与えると言われたとき、アブラハムは心の中でそれを疑った。来年自分は100歳、サラにしても90歳、もう子を産める体ではなかったからである。
⑤ 創17：19～24　アブラハムの心の中をご存知の神は、すぐにもう一度約束のことばを告げられる。今度は、アブラハムは信じた。そしてその日のうちに、神の命令のとおり、割礼を実行した。
⑥ 創18：2　その後間もなく、3人の人が訪れる。ひとりは主ご自身【第二位格の子なる神】（創18：33、19：24）、あとの二人は天使（創19：1）。このとき、サラはアブラハムと主との会話を、自分の天幕の中から聞いた。その内容は、来年の今ごろ、サラには男の子ができているとのこと、サラは心の中で笑ってこう言った。「老いぼれてしまったこの私に何の楽しみがあろう。それに主人も年寄りで」（創18：12）
⑦ この3人の訪問のときに告げられた宣言は二つ。一つは、サラに男の子が生まれるということ、二つめはソドムとゴモラに神のさばきが下って滅ぼされるということ。二つめは、この後すぐに現実となった。ソドムとゴモラが主のことばのとおりに滅亡したということは、サラの中で、一つめの宣言「サラに

男の子が生まれる」も必ず成就するという信仰を形成させた。

2. 12節
   (1) そこで：11節で見たアブラハムの信仰の結果、どうなったかを示す。
      ① ひとりの人から、しかも死んだと同様の（＝年老いて、生殖能力が無くなった）アブラハムから、
      ② 天の星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれた。
   (2) アブラハムは、ユダヤ民族の父となっただけではない。その他の諸民族、とくに現在のアラブ諸国につながる人々（イシュマエルの子孫、創21：13、18、21、25：12～18）の父でもある。

目の前の土地ではなく、より優る国を求める（11：13～16）

1. 13節
   (1) これらの人々（アブラハム、イサク、ヤコブ）は、その生涯の中では約束の成就を見ることなく、死んだ。
   (2) しかし、彼らは、はるかにそれを見て喜び迎えた。
      ① 彼らは知っていた。もし自分が死んで、神の約束がまだ成就していないとしたら、その約束は自分の次の人生において必ず成就する。
   (3) 彼らは、喜んで当時の生活を送っていた。「自分は他国人であり、信仰の旅人です」と告白しながら（創23：4、20：13）。
      ① 他国人として、彼らは外国で市民権もなく住んでいた。
      ② 信仰の旅人として、彼らは確固とした所有権のものを何も持たなかった。
      ③ 彼らは、喜んで待っていたのである。次の人生において受ける褒賞を。
2. 14節
   (1) 彼らは、自分のことを他国人であり、信仰の旅人であることを告白することで、何を表明していたのか？
      ① 「自分の故郷」ギパトリス、直訳すると「父の国」
      ② 天の父が用意してくださっている天の神の国を、自分の生涯を通して求めていくこと。
   (2) 彼らがパトリスの地に立つ日はいつなのか？
      ① マタイ8：11　千年王国が始まるとき
         ● 食卓に着く＝ギ後ろによりかかる、横になる
3. 15節
   (1) もし彼らが待つことに疲れてしまったなら、彼らはいつでも自分が出て来た元の所（ウルやハラン）に戻ることができたはずである。
   (2) 信仰の人生は、元の所で築き上げたことや元の所で得ていた楽しみや慰めを、喜んで捨てることである。そして信じた日からの人生を、より良い約束のために、あえて不都合な状況になっても、よしとすることである。
   (3) 彼らは約束の大半を受けることはなかったが、それを待ち望み続けた。
4. 16節
   (1) 彼らは、より良い国＝天の神の国を受け継ぐことを知っていた。
   (2) 彼らは、いつの日か、天の神の都の中に住むことを知っていた。そこは、地上のいかなる場所よりもはるかにすぐれた所であると確信していた。

(3) この希望によって、彼らは、元の所に帰ることはせず、喜んで待ち続けた。
(4) それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさらなかった。
　① 原文は、次の２つの内容
　　● 神は彼らを【兄弟と呼ぶことを】恥じなかった（参照　ヘブル３：11）
　　● 神は彼らの神と呼ばれることを恥じなかった。
(5) 神は、すでに用意しておられる、彼らのために、天の都を。彼らは、黙21：2の新しいエルサレムに、より優る家を持っている。

■ 今回の内容　「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」③（11：17～19）

| 手本となる生き方 | | 内容 | 箇所 |
|---|---|---|---|
| 神の召命を受けて生まれ故郷を離れる | アブラハム | （使徒7：2～5、創11：31～12：7） | 8 |
| 寄留者となる | | （創13：18、22：19、23：4、24：67、25：27） | 9 |
| | | （創24：7） | 10 |
| 不可能でも子が生まれるという約束を信じる | | （創17章、ロマ4：17～22、創18：1～15） | 11～12 |
| 目の前の土地ではなく、より優る国を求める | | 【イサク、ヤコブも】 | 13～16 |
| イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明する | | （創22：1～18） | 17～19 |

イサクを捧げることを通して、復活信仰を表明する（11：17～19）

今日の学びの流れ：ヘブル11章8～16節で、アブラハムは4つの手本となる生き方を通してその信仰を示した。17～19節では5番目の手本、ここでアブラハムは何を信じたのか。その信仰の内容は、「復活を信じる」である。

まず創世記22：1～18からイサク奉献の出来事をたどり、その次にヘブル11：17～19、三番目にアブラハムが復活信仰に導かれた経緯を考える。

イサク奉献の出来事（創世記22：1～18

1. 創世記22：1～2　神の命令
　(1) 神は、アブラハムを試練に会わせられた。神は彼に、「アブラハムよ」と呼びかけられると、彼は、「はい。ここにおります」と答えた。
　　① 「試練に会わせられた」:「試（こころ）みた」（Ⅱ歴32：31）、その目的は「その人の心にあることをことごとく知るため（＝明らかにするため）」
　　② 神はアブラハムを、試みた、試（ため）した、テストした、証明した。→ 神はアブラハムを試して、彼の信仰を明らかにした、証明した。

(2) 神は仰せられた。「今、取れ。あなたの子、あなたのひとり子、あなたの愛する（子）、イサクを。そして、行け、あなた自身のためにモリヤの地へ。そして、彼をささげよ、全焼のいけにえとして、一つの山の上で、そこはわたしがあなたに示すであろう。」

① 行け、あなた自身のために（英語では、go for yourself）：何かから離れて出発すること、そしてそれはその人のため、祝福のためである意味を含む。

② 創世記は、アバラハムへの神の現れを、7回記す。ここは、7回目。

③ 1回目は12：1　「行け、あなた自身のために、from ～ から【あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家】、to ～ へ【地】、そこはわたしがあなたに見せるであろう」

(3) ユダヤ教ラビの伝承：神とアブラハムのやりとり

① あなたの子、「どちらですか。私には2人の子がおります。」

② あなたのひとり子、「どちらもその母親にとってはひとり子です。」

③ あなたの愛する子、「私はどちらをも愛しています」

④ イサク

(4) しかし、この文脈では「ひとり子」とは、「母親にとってのひとり子」ではない。他の子とは区別される、特別な何かをもつ子である。イサクは・・・

① アブラハムにとって、神の約束によって、妻サラが生んだひとり子である。

② アブラハム契約をアブラハムから継承する、ただ一人の子である。

(5) イエスが神の「ひとり子」（ヨハ3：16）と呼ばれるのも、特別なお方であることを意味する。

① 「神の子たち」

- 神がお造りになった天使たち
- 信仰によって神の子とされた（養子とされた）信者たち

② イエスは、天使たちとも信者たちとも区別される、特別なお方である。

③ イエスは、神の永遠の御子である。三位一体の神の第二位格のお方である。

2. 創世記22：3～5　出発

(1) 3節　アブラハムの従順な行動7つ

① 翌朝早く起きた

② ろばに鞍をつけた

③ ふたりの若い者を同行させた（伝承では、イシュマエルとエリエゼル）

④ 息子イサクを連れた

⑤ 全焼のいけにえのためのたきぎを割った

⑥ 立ち上がった

⑦ 神がお告げになった場所へ出かけて行った

(2) 4節　到着　3日の旅路（距離にして80～100㎞）

(3) 5節　若い者たちへの待機指示　「私とこどもとは、・・・戻って来る」

3. 創世記22：6～10　イサクを捧げる

(1) 6節　アブラハムとイサク、モリヤの山を登る。イサクはたきぎを背負う。アブラハムは火と刀を持つ。

(2) 7～8節　アブラハムとイサクの会話

① 「神ご自身が全焼のいえにえの羊を備えてくださるのだ」ヘブル語原文は二

通りの訳が可能

- 神が、ご自身のために、全焼のいけにえの羊を、備えてくださるだろう
- 神が、ご自身を、　全焼のいけにえの羊として、備えてくださるだろう

② 二通りの訳のうち、2番目は、イエスの十字架において実現した。

(3) 9～10節　イサクを捧げる

① 9節　神が告げられた場所に来た

② アブラハムは、そこに祭壇を築いた（このとき、アブラハム130～137歳、イサク30～37歳、2036～2029BC。この場所にソロモンの神殿着工966BC。およそ千年後。）

③ 祭壇の上にたきぎを並べた

④ アブラハムはイサクを縛った

⑤ アブラハムは、縛ったイサクを、祭壇の上のたきぎの上に置いた（ここまで、イサクは何の抵抗もしていない。体力では十分抵抗できたはずだが、イサクは、完全に父を信頼し、身を任せた）

⑥ 10節　アブラハムは手を伸ばし、刀を取って、自分の子をほふろうとした（伝承では、刀はイサクの喉元に当てられた）

4. 創世記22：11～14　神によって代わりのいけにえが用意される

(1) 11～12節　主の使いがアブラハムを止める

① その理由：今、わたしは、あなたが神を恐れることがよくわかった。

② 神はこのことをすでに知っておられたが、今それは体験的に明らかとなった。体験的にというのは、次に続く説明・・・「あなたが、自分の子、自分のひとり子さえ惜しまず、わたしにささげた」

③ 神を恐れる＝神を信じる、神に信頼する。信者がその信仰をもっていることを外部に証明するのは、体験的な行いによる。ヤコブ2：22～24

(2) 13節　雄羊が角をやぶにひっかけていた

① アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の子の代わりに、全焼のいけにえとしてささげた。→　アブラハムは、その雄羊が、イサクの身代わりであることを理解していた。

② 主の山には備えがある・・・主の山とは、モリヤの山、シオン（Ⅱサム5：7、Ⅰ列8：1）の山（Ⅰ歴21：18～22：5）、神殿の山（Ⅱ歴3：1）。ここで、イエスによる贖いがなされることになる。

5. 創世記22：15～18　アブラハム契約の確認（5回目・最終回）

① 17節　子孫の約束　土地の約束

② 18節　祝福の約束　「あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受ける」→　ガラ3：16　イエス・キリストを指す

ヘブル11章17～19節

1. 17節a　信仰によって、アブラハムは、試みを受けたとき、イサクを捧げた。
   (1) 「試みを受けたとき、イサクを捧げた」：聖書原文のギリシア語文法では、神の命令を受けている間に、アブラハムはためらいなく、直ちにその命令に従って行動に移りはじめた、という情景が表現されている。
   (2) つまり、アブラハムは、神の命令について、これはどういうことかと考えをめぐらすようなことは、わずかな時間すらも、していない。
2. 17節b　彼は、約束を与えられていたが、自分のひとり子を捧げた。
   (1) この訳では、「約束を与えられていたにもかかわらず」というニュアンスになるが、原文ではそうではない。
   (2) イサクについて、説明する文になっている。直訳すると「そして、そのひとり子を捧げた。その子について、彼は約束を受けていた。」
   (3) どういう約束だったのか、続く18節で説明される。
3. 18節　その者について（神により）次のように言われていた、「イサクの中に、あなたの子孫が呼び出される」
   (1) アブラハムが17節の命令を受けた時点では、まだイサクは独身。子を持たないまま死ぬなら、アブラハム契約を受けるべき子孫は絶えることになる。
   (2) しかし、アブラハムは直ちに従った。なぜアブラハムは、ためらいなく直ちに神の命令に従って、イサクを連れてモリヤの地へ行くと決断できたのか？　その答えは、19節で語られる。
4. 19節a　彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えた。
   (1) 原文をその語順のとおりに訳すと、「(神の命令を聴きながら彼は) 考えていた、死者の中からでもよみがえらせることは、可能である、神には。」
   (2) アブラハムの信仰が依って立つところは、２つ。
      ①　創造主なる神の力
      ②　神の真実、すなわち神が約束したことは必ず成就するということ
   (3) イサクが子をもうける前に死ぬなら、神は約束を成就するために、イサクをよみがえらせて、子をもうけさせる義務を負うことになる。
5. 復活についてのイエスの教え（マタイ22：23～33）
   (1) 復活はないと言っているサドカイ派の指導者たちに対して、「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからだ」と指摘したうえで、出3：6、「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、そしてヤコブの神である」を引用して、復活があることを論証した。
   (2) この神の名は、「アブラハムが信じた神、イサクが信じた神、そしてヤコブが信じた神」という意味ではない。
   (3) 神がアブラハムと契約されたこと、その契約はイサクに、そしてヤコブに継承されたことを指している。
   (4) ひと言でいえば、「アブラハム契約の神」という意味。
   (5) アブラハム契約において、アブラハム、イサク、ヤコブは、神からカナンの地を領有するという約束を受けていた。彼らは、その約束をまだ受け取らないうちに死んだ。約束を守る神であるから、神はアブラハム、イサク、ヤコブをよみがえらせて、その約束のとおりにされるはずである。復活は当然起きるべきことである。

アブラハムが「死者からのよみがえり」を信じるようになった経緯

アブラハムは、神からイサクをささげよと命じられたときに、すぐ「よみがえり」について考えた。彼はその生涯の中、いつの時点で、それを信じるようになったのか？
創世記にはアブラハムへの神の現れが7回記されている。それを手かがりに推定すると・・・

| 章 | 回 | 箇所 | 内容　【アブラハムの年齢】 |
|---|---|---|---|
| 12 | 1 | 12：1～3 | ハランにて、神の召命「わたしが示す地へ行け」【75歳】 |
| | | | カナンの地に入る |
| | | | 北から入って南下、シェケムの近くに。モレのテレビンのところ |
| | 2 | 12：7 | 「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」 |
| | | | ベテルとアイの間に移動　注ベテルの当時の名はルズ（28：19） |
| | | | さらに南下して、ネゲブの方へ |
| | | | 飢饉のため、エジプトに行く |
| 13 | | | 戻ってきて、ロトと別れる（ベテル付近） |
| | 3 | 13：14～17 | 「永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう」 |
| | | | 地を縦と横に歩き回る<br>ヘブロンの近くに住む。マムレのテレビンのところ<br>注ヘブロン、当時はキルヤテ・アルバ（ヨシュ 14：15） |
| 14 | | | 王たちの戦い、ロトとソドムの住民の救出、メルキゼデクの祝福【78歳？】 |
| 15 | 4 | 15：1～21 | 「あなたの子孫は自分たちのものでない国で寄留者となり、奴隷とされ、400年の間、苦しめられる。・・・あなた自身は、長寿を全うして葬られよう。そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。・・・」　アブラハム契約の締結（17～18節）<br>注四代目：レビ→ケハテ→アムラム→アロン・モーセ（出6：20） |
| 16 | | | イシュマエルの誕生【86歳】 |
| 17 | 5 | 17：1～22 | 「あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える」<br>割礼の命令、イサク誕生の予告①、イシュマエル祝福の約束 |
| | | | 割礼の実行【99歳】 |
| 18 | 6 | 18：1～33 | 三人の来訪、イサク誕生の予告②とソドム・ゴモラ破壊の予告 |
| 19 | | | ソドムからロトとその家族の救出、ソドム・ゴモラの破壊 |
| 20 | | | ネゲブ地方ゲラルへの移動 |
| 21 | | | イサクの誕生【100歳】 |
| | | | イサク乳離れ、イシュマエルを外に出す【101歳】 |
| | | | イシュマエルの成長、ベエル・シェバの誓約<br>長い間、ペリシテ人の地に滞在する<br>注ペリシテ人がこの地に進出するのは、紀元前12世紀 |
| 22 | 7 | 22：1～18 | モリヤの地で、イサクを捧げる【130～137歳】 |
| | | | 戻ってネゲブ地方のベエル・シェバに住む |
| 23 | | | 妻サラの死【137歳】 |
| 24 | | | イサクの嫁として、ハランからリベカを迎える【140歳】 |